



ALTEMIRA
ALTEMIRA Can

Sustainability Report 2024

アルテミラ サステナビリティレポート



アルミの技術で夢のアルミライを[®]

これが私たちのパーパスです

私たちはパーパスのもと、お客様に寄り添い

夢のある未来を創造していきます

私たちは、アルミという素材に真摯に向きあい

一心にその可能性を追求してきました

今後は各社に蓄積されている開発力、技術力、知見を総動員し

グループ一丸となってお客様と夢のある未来を切り拓いていきます

加えて、高度なりサイクル技術を更に深化させ

持続可能な社会の発展に貢献します

アルミの魅力を知っている私たちは

アルミ缶・圧延事業を専業とすることで培われた

卓越した技術力と豊富な知見を糾合し

全てのお客様へ夢のある未来を届けます

『アルテミラ』



ロゴのデザインコンセプトは、英文社名「ALTEMIRA」と「Aluminum」の頭文字である「A」、国内におけるリサイクルマークをモチーフに三角形のシンボルとしました。ALTEMIRAの大切なお客様およびALTEMIRAが守るべき社会を、私たちALTEMIRAグループが下支えしている姿を表現しています。

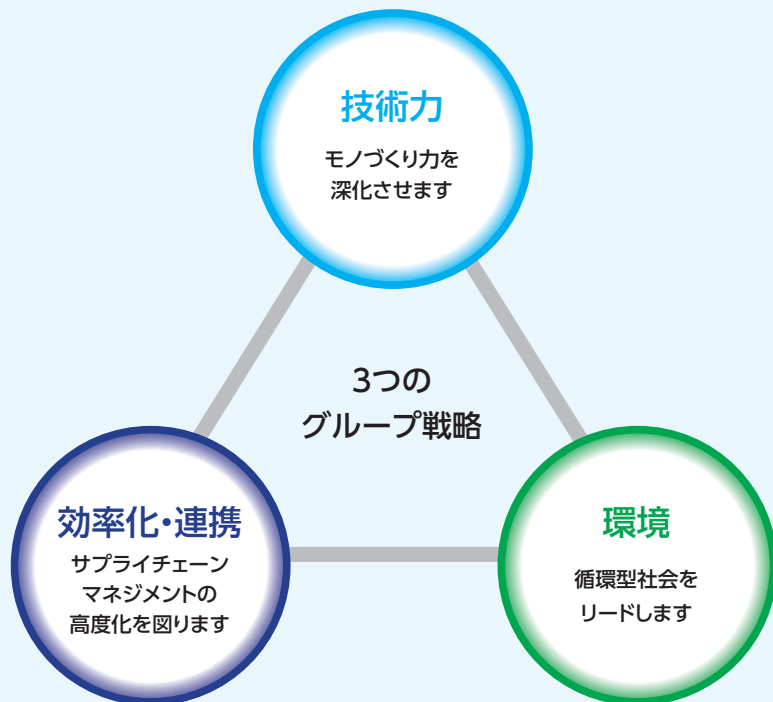
ベースカラーは、お客様に対して「One ALTEMIRA」で誠実に取り組む姿勢を表現したブルーとしています。加えて、ALTEMIRAの強みであるリサイクル技術で「グリーン社会の実現に貢献する」という想いからグリーンを組み合わせました。そして、ALTEMIRAが私たち自身、お客様、社会と共に明るい未来を創造していく姿勢を表現しています。

Group Strategy グループ戦略

「世の中になくなくてはならない存在」への成長

各社の強みを融合し夢のある未来を創造していくベストプラクティスの共有・深化を水平・垂直で進めることによりシナジーを創造していくために3つの戦略を策定しました

- グループ共通の先駆的な精神を活かし、優れたモノづくりによりお客様に新たな価値を提供します
- 水平・垂直統合により各社に蓄積された知見や経験を結集させ、お客様にトータルソリューションを提供します



- グループ全体のリソースを活用することにより、生産／供給体制の最適化による事業基盤、BCM[※]の強化を実現します
- ベストプラクティスの共有によるサプライチェーン全体を通じた品質、安全、環境マネジメント力の向上を図ります
- 高いリサイクル技術を誇り、圧延・製缶垂直統合を実現したアルテミラだからこそ可能な、サステナブルソリューションを追求します
- 消費者に届く最終製品まで含めたバリューチェーン全体での、環境負荷の低減に貢献します

※Business Continuity Management(事業継続マネジメント)

Contents

パーパス	P2
トップメッセージ	P4
環境に配慮した製品	P6
環境保全の取り組み	P8
コーポレート・ガバナンス	P11
安全衛生の取り組み	P13
品質保証の取り組み	P15
社会貢献活動	P16
会社概要	P18
組織図	P19
沿革	P20

編集方針

- 報告対象分野と報告対象範囲
アルテミラおよびアルテミラ製缶全体のサステナビリティ活動が対象
ただし、一部の内容はアルテミラグループ全体
- 報告対象期間
2023年度(2023年1月～2023年12月)。ただし、一部、対象期間外の活動・実績にも言及しています。
- 発行日
発行日:2024年9月
- 作成部署
アルテミラ株式会社 グループ戦略統括部 人事・総務部

Top Message トップメッセージ

アルミの技術で循環型社会をリード。
私たちはサステナブルな事業活動を通じて
地球環境の未来に貢献します。



代表取締役社長
中塚 晃章

アルテミラグループがつくる アルミを軸とした循環型社会

国内におけるアルミ缶のリサイクル率は現在97.5%に上り、CAN to CANのリサイクル率73.8%を達成し^{*1}、いち早く循環型経済(サーキュラーエコノミー)を実現しています。その原点は、私たちが日本で初めてアルミ缶を製造した1971年まで遡ります。1975年には業界に先駆けてアルミ缶リサイクルをスタート、2001年にはUBC(使用済み飲料用アルミ缶)回収から再生地金の製造、製缶まで行う「UBC一貫処理システム」を構築しました。さらに近年ではアルミ缶水平リサイクル「CAN to CAN」を展開するなど、国内におけるアルミを軸とした循環型社会の構築をリードしてきたのです。

2024年、当社は技術的に難しかったアルミボトルのキャップにリサイクル材を使用する技術を確立し、1缶当たりのCO₂排出量の37%削減^{*2}を達成しました。私たちは「アルミの技術で夢のアルミライを[®]」というパーパスのもと、社会課題の解決につながるイノベーティブな活動をこれからも続けていきます。

One ALTEMIRA の旗を掲げ、 グループとして進化をつづける

2022年、アルミ缶事業、アルミの圧延・箔・押出を専業とする5社が統合したアルミグループ「アルテミラ」が誕生し、業界で唯一無二の垂直統合型の企業体として新たなスタートを切りました。以来、「技術力」「効率化・連携」「環境」という3つの戦略のもとで、各社の独立性と競争力を高め、グループ内でシナジーを生み出す経営を進めてきました。

社内に向けてはOne ALTEMIRAの連携を高めるために、毎月のトップメッセージ発信やタウンホールミーティングなど交流を活性化して社内文化の融合を図ってきました。また、多様

な人材がそれぞれの能力を発揮できる職場環境を創出し、エンゲージメントを高めるダイバーシティ&インクルージョン施策を実施しています。

今年度は、目覚ましい活躍をした社員を表彰する「Group CEOアワード」制度を立ち上げました。さらに従業員サーベイを実施し、その結果を踏まえて今後の人事諸制度の統一化など改革を実行していく予定です。これと並行して従業員の心身の健康維持・増進につながる施策を実施し、健康経営を推進していきます。

2030年、温室効果ガス排出量40%削減へ リサイクルの優等生「アルミの優位性」を発信

持続可能な社会を実現し、地球環境を守り継ぐ——そのためにアルテミラグループでは 2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、2030年の目標を設定しました。2030年には、Scope1・2 におけるGHG(温室効果ガス)排出量の40%削減^{※3}を目指します。この目標に向けた具体的な施策としては、均質化炉の更新や燃料転換などによる「設備効率化」、オンサイト PPA などの「再生可能エネルギー活用」、グループシナジーを活用した「軽量化」「リサイクル材の活用促進」などに積極的に取り組んでいきます。

さらに2050年には、Scope1・2におけるGHG排出量ゼロ、Scope3におけるGHG排出量の最小化へと、最新の技術や知見を取り入れながら段階的にステップを踏んでいます。カーボンニュートラルの実現は、日本政府のエネルギー政策、産業界における再生可能エネルギー活用促進や省エネ技術導入、また消費者の行動変容など社会全体のパラダイムシフトが必要です。私たちが取り扱うアルミ缶・アルミ製品は消費者の生活に不可欠な存在で、アルミ缶の年間需要は約210億缶^{※4}(ペットボトルは約241億本^{※5})の流通規模があります。先進国では

すでにアルミ缶へのシフトが始まっていますが、アルミ缶への置き換えが進むことで、大きな環境インパクトが期待できます。私たちはアルミ専門企業グループとして、リサイクルの優等生である「アルミの優位性」を世の中に積極的に発信する役割を果たしていきます。

サステナブルな未来を実現する アルテミラ発・アルミムーブメントが始動

アルミニウムの魅力は、軽くて丈夫、鋳造しやすく熱伝導率が高いことなど多岐にわたります。なかでも最大のメリットは、永久的にリサイクルしつづけることができる優れた環境素材であることです。当社はB to B企業ですが、地球の未来や企業のあり方に大きく影響を与えるのは、最終的に消費者の皆さんのアクションだと考えています。当社では、サステナブルな選択肢としてのアルミの価値を世に広めるべく、有志社員が集まって「PET to CANプロジェクトチーム」を立ち上げました。また、SNSなどを活用して一般の方に向けてアルミの魅力や私たちの活動を伝えていく情報発信も始めました。さらにB to C企業との協業、子どもたちの工場見学を実施し、アルテミラ発・サステナブルな未来を実現するアルミムーブメントを巻き起こしていきたいと考えています。

アルテミラが成長しつづけることが 地球環境の明るい未来に直結します

私たちの暮らす地球を持続可能なものにするには、企業は利益追求だけでなく、同時に社会課題の解決につながる事業活動を実現することが求められます。グループとしてさらに強くなるために、4月から新たに社外取締役を迎え入れました。新たな価値を生み出すには、社内のダイバーシティはもちろんですが、

取締役会においてもダイバーシティ実現は欠かせません。ボードメンバーの充実を図ることで、多様な視点から自由闊達な議論を重ね、世界に必要とされるアルテミラの未来を紡ぎ出していきたいと考えています。

私は従業員が健やかに誇りをもって働き、アルテミラが成長しつづけることが、地球環境の明るい未来に直結すると確信しています。これからも私たちの培ってきたアルミの技術で社会に貢献し、地球環境の明るい未来につなげていきます。

- ※1,4 2023年度国内アルミ缶需要量(アルミ缶リサイクル協会)
2023年アルミ缶の需要量と2023年度のアルミ缶のリサイクル率(アルミ缶リサイクル協会)
- ※2 従来の410mlアルミボトルとアルミキャップの組合せに対する100%リサイクル材の410mlアルミボトルとアルミキャップのCO₂排出量
- ※3 対象：グループ国内会社、基準年：2013年
- ※5 PETボトルリサイクル年次報告書2023(PETボトルリサイクル推進協議会)



環境に配慮した製品

当社では製品の軽量化やリサイクル材率向上などへの取り組みを推進し、Scope3^{※1}におけるGHG^{※2}排出量の最小化を目指します。

※1 Scope3:事業者の活動に関する原料調達、物流、廃棄などに伴う排出 ※2 GHG:Green House Gas(温室効果ガス)

100%リサイクル材を使用したアルミボトルとキャップの供給開始

アルテミラグループではアルミ缶、アルミボトルの製造に、GHG排出量の多いアルミ新地金から、GHG排出量の少ないリサイクルアルミ材の活用を積極的に進めています。リサイクルアルミ材の製造ではアルミ新地金の製造に必要なエネルギーを約97%削減可能です。リサイクルアルミ材の適用により、GHG排出を抑制することで地球温暖化防止に役立っています。

アルテミラグループではグループ全体で取り組んでいる使用済み飲料用アルミ缶の回収から、鋳造、圧延、製缶工程を経て再びアルミ缶に生まれ変わるリサイクルシステムの様子をYouTubeチャンネル プロセスXの協力を得て公開し、アルミの再利用価値と意義を広くアピールしています。世界中からアルミ缶からアルミ缶への水平リサイクルCAN to CANに共感するコメントをいただきました。

アルテミラグループでは100%リサイクル材^{※3}を用いたリサイクルアルミ缶胴、リサイクルアルミボトルを製造しています。中でも複雑な成形加工を必要とするアルミボトルに100%リサイクル材を適用する事が可能となったことにより、これまでのアルミ新地金を使用したアルミボトルに比べ、CO₂排出量を25%削減できるようになりました。100%リサイクル材を使用したアルミボトルは環境に配慮した製品として2022年12月より製造を開始し、供給を続けております。

また、アルミボトルに巻き締めるキャップについても100%リサイクル材の使用に取り組み続けてきました。100%リサイクル材は従来の新地金を使用したキャップ用アルミ材とは性質に差があるため、素材とキャップ製造についてそれぞれ開発を進

め、2024年5月より、100%リサイクル材を使用したキャップの供給を開始することができました。

これによりキャップからボトルまですべてのアルミ素材が100%リサイクル材からなる世界で初めてのアルミ容器を市場に展開することができました。

100%リサイクル材を使用したアルミボトルとキャップは、従来のアルミ新地金を使用したアルミボトル、キャップと比較して、CO₂排出量を37%削減することが可能となり、より環境負荷を低減する製品として、供給を続けていきます。

アルテミラグループの強みであるリサイクルシステムに新たにキャップ製造も加わることでCAN to CANを継続し、環境負荷の少ない製品の供給と使用拡大を進めていきます。

※3 使用済み飲料用アルミ缶、コイルおよびアルミ缶製造時に発生するスクラップで構成される材料(成分調整分を除く)



アルミボトル
(410ml)



アルミボトル用
キャップ

軽量化の取り組み

350mlアルミ缶については、ビール用やノンアルコール飲料やRTD用の缶胴の軽量化の開発を進めています。軽量化するためには、缶底の厚みを薄くする必要があり、強度の低下が懸念されます。このため、缶底部の形状や、缶底部内側に溝をつけるボトムリフォームという加工技術を使用し、缶体強度の低下を防ぐ必要があります。

500mlアルミ缶については、ビール用缶胴の質量約7.5%の軽量化を実現しています。缶底部の厚みを薄くすることで、強度が低下しますが、缶底部の形状を変更して、強度の低下を防いでいます。

炭酸飲料向け310mlアルミボトルにおいても、現在軽量化の開発を進めています。炭酸飲料用は、コーヒー飲料に比べて高い耐圧強度が必要になります。缶底部の耐圧強度を高めるために、ボトムリフォームを使用して、耐圧強度を確保しています。

今後も、アルミ缶やアルミボトルの更なる軽量化を進めていきます。



YouTubeチャンネル プロセスX

URL <https://www.youtube.com/watch?v=YP3aUhb4rWg>
動画タイトル「使用済みアルミ缶を再びアルミ缶にするプロセス。日本のアルミリサイクル工場。」



アルミカップ用リサイクルマーク制定

近年、海洋プラスチック問題などプラスチック容器の廃棄の課題が背景となって、プラスチック製使い捨てカップの代替品に関心が高まっています。

こうした中、アルテミラグループは使い捨てカップの代わりになるアルミカップを開発しました。当グループが開発した「Green-AL CUP®」は世界初の100%リサイクル材を使用したアルミカップであり、環境負荷の少ないプラスチック代替容器ですが、アルミ缶やアルミボトル同様、使用後は回収し、缶材用アルミ材に再生することも重要と考えています。

このため、消費者の方が通常のアルミ缶同様に回収に協力いただく必要があります。一般的なアルミ缶にはリサイクルを促進するための識別マークが表記されていますが、このマークは容器リサイクル法で「飲料、酒類が充てんされたもの」と定めら

れているために利用できません。アルミカップがリサイクルできることを消費者の方に広く知ってもらうため、アルミ缶リサイクル協会、関係省庁と連携し、新しいアルミカップ専用の業界統一識別マークを作りました。この業界統一マークをGreen-AL CUP®に表記し、消費者の皆さん、回収に携わる自治体の皆さんに一般のアルミ缶同様にリサイクルできる容器であることを広め、環境負荷低減に寄与していきます。



アルミカップ業界統一リサイクルマーク制定
発表記者会見



リサイクルマーク

環境保全の取り組み

モノづくりには、多くの資源・エネルギーを消費し、さまざまな副産物や廃棄物を排出するという側面があります。当社は、限りある資源を浪費しないこと (INPUTの削減・有効活用) と、地球環境の保全に貢献すること (OUTPUTの削減・管理) を念頭に置き、コンプライアンスを遵守し、アルミ缶製造メーカーとしての特徴を活かしたサステナブルな環境保全に取り組んでいます。

環境マネジメント活動による継続的改善

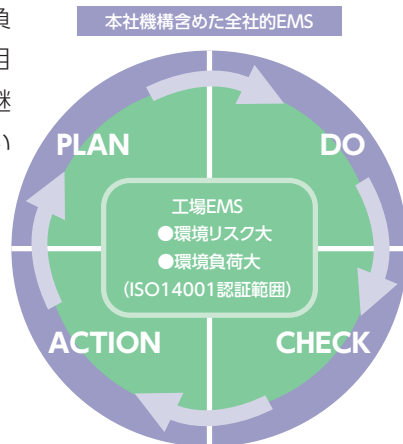
アルテミラグループ環境方針

《基本方針》環境の保全に努め、豊かな自然との調和・共存を図る

- 法の遵守
環境関連諸法令の遵守
- 環境汚染予防
環境事故の未然防止、環境負荷の低減
- カーボンニュートラル
GHG排出量実質ゼロの実現
- 資源の有効活用
サプライチェーンを通じたアルミリサイクルへの対応、付加価値の提供
- 継続的改善
環境マネジメントシステム活用による環境パフォーマンスの向上

環境管理体制

全社的なEMS (環境マネジメントシステム) を構築し、そのうちISO14001認証取得範囲の主体については工場に絞り、「環境リスク低減」と「環境負荷低減」を重点実施項目として、日々の活動と継続的な改善を推進していきます。



環境重点取組会議

「省エネ・脱炭素推進委員会」、「水質管理委員会」、「廃棄物削減委員会」を共催する形で、2回/年、各工場の担当者参画による、活動報告・意見交換の会議を開催し、主に、好事例の水平展開や顕在化リスクの情報共有などによる、それぞれの取り組みの効率化を図っています。

省エネ・脱炭素推進活動

[Scope1、2^{*1}関係]

インバーターによる設備稼働の最適化、電動機の高効率製品への更新、乾燥炉の断熱による熱ロス削減、ヒートポンプによる廃熱利用、エア漏れ早期検知・修繕など、あらゆる取り組みを工場全体で促進しています。

[Scope3^{**2}関係]

製品の交錯輸送低減への取り組み、アルミ地金のリサイクル材活用など、LCA (ライフサイクルアセスメント) の観点で、総合的な脱炭素を推進しています。

*1 Scope1: 事業者自らの燃料の燃焼や工業プロセスに伴う排出 (直接排出)

Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う排出 (間接排出)

**2 Scope3: 事業者の活動に関する原料調達、物流、廃棄などに伴う排出

水質管理活動

製缶事業では、アルミ加工時の潤滑油および表面処理剤の洗浄水を排水処理工程にて清浄な水に処理したうえで、河川などに放流します。この処理工程については、「油や不純物の凝集分離」、「有機物の生物処理」などに、順次、新しい技術を取り入れ、清浄水への処理の更なる安定化を図っています。

廃棄物削減活動

産業廃棄物削減については、製品数量当たりの排出原単位削減とともに、廃棄物の有価物化率向上、最終埋立処分のゼロ化 (ゼロエミッション) など、循環型社会形成に寄与する再資源化率の向上に取り組んでいます。

資源の有効活用、環境負荷低減、そして脱炭素へ。

対象：製缶事業9工場

INPUT

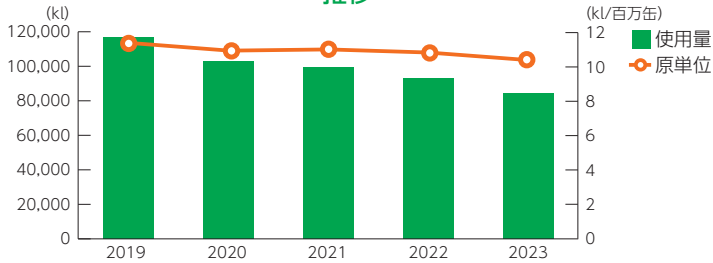
2023年

総エネルギー使用量(原油換算)

82,794kL

製造ラインを稼働する電力、乾燥工程に使用するガスなど

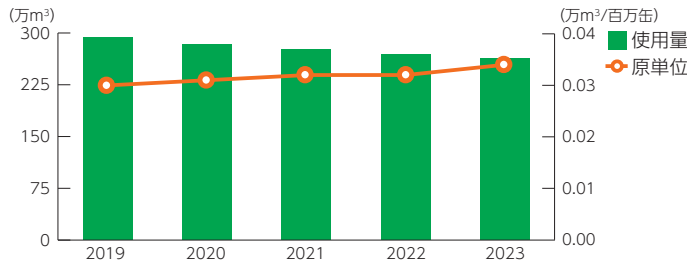
推移



水使用量

263.6万m³

加工油を洗浄する水など



OUTPUT

2023年

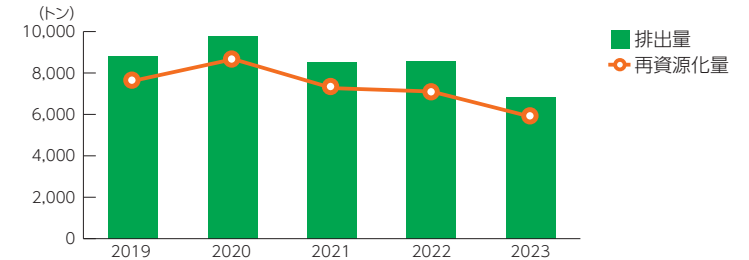
廃棄物発生量

6,831トン

排水処理汚泥、加工油など

(うち、再資源化量5,911トン)

推移



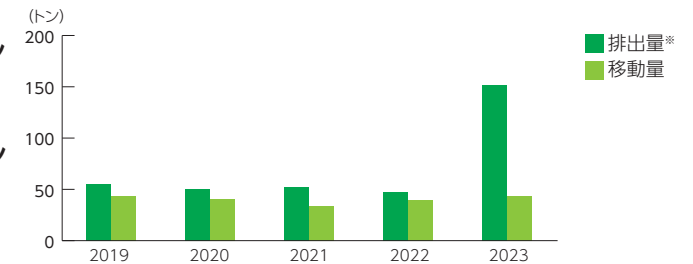
指定化学物質の排出量と移動量 (PRTR制度対象物質)

ホルムアルデヒド、ポリアルキルエーテルなど

排出量：大気・水域へ **152**トン

移動量：廃棄物へ **43**トン

※法令の改正に伴い、2023年度は対象物質が大幅に増加



大気への排出量 (大気汚染防止法対象物質)

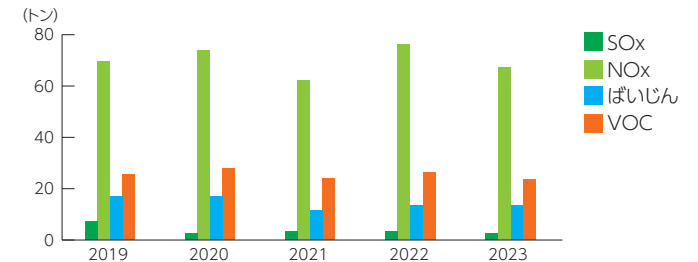
主にインキ、塗料の乾燥工程から発生する物質の総量 (VOCのみ規制値未満へ燃焼処理した後の値)

SOx **2.6**トン

NOx **67.4**トン

ばいじん **13.5**トン

VOC **23.5**トン



水域への排出量 (水質汚濁防止法対象物質)

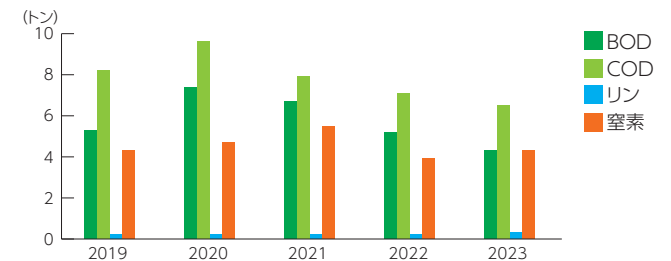
排水処理工程にて、規制値以下に処理された物質の総量

BOD **4.3**トン

COD **6.5**トン

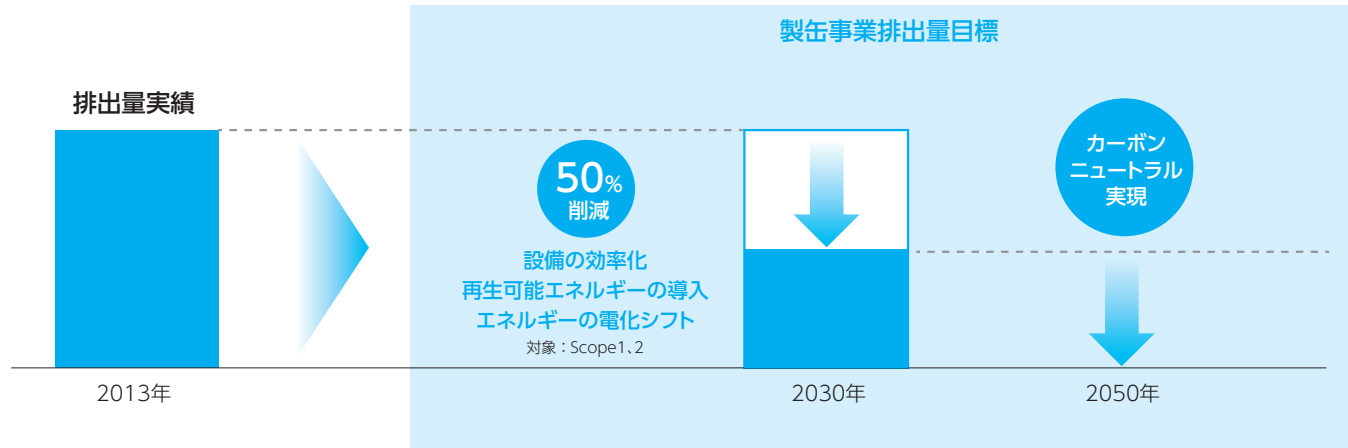
リン **0.3**トン

窒素 **4.3**トン



カーボンニュートラル宣言

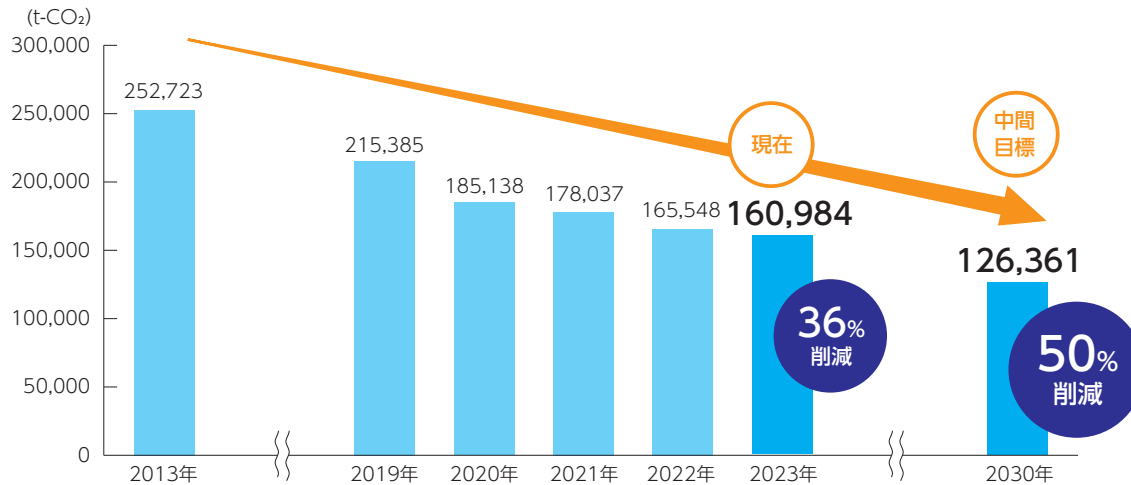
カーボンニュートラル実現に向けて



アルテミラグループの製造事業は、各事業所内で消費するエネルギー起因(Scope1,2)のGHGを、2013年比で、「2030年50%削減」の目標を立てています。また、2050年にはカーボンニュートラル実現を目指します。

現在、設備の効率化や廃熱利用などにより、35%削減まで進捗しており、今後は再生可能エネルギーの導入や、ガス設備の電化を含む技術革新も視野に入れ、長期的目標の達成に向けて、取り組みを推進します。

製造事業9工場のCO₂排出量合計推移



Scope3におけるLCA手法の活用

また、軽量化やリサイクル材率向上など、Scope3におけるGHG排出量削減の取り組みについては、グループ一体となってLCAの手法を活かし、その効果を数値化、見える化を行うことで、効率的な推進に努めています。

LCAによる算出事例

リサイクル材使用率向上による、GHG削減効果(従来缶 [※] 比較)				
410Bアルミボトル	缶胴オールリサイクル材		25%削減	
	缶胴+CAPオールリサイクル材		37%削減	
※従来缶:アルミ缶業界平均LCA算出値より				
軽量化によるGHG削減効果(2013年比)				
	2022年		2030年	
	1缶当たり重量	GHG削減効果	1缶当たり重量	GHG削減効果
350mlアルミ缶	6%削減	3%削減	22%削減	13%削減
410Bアルミボトル	7%削減	4%削減	17%削減	10%削減

LCAの算出対象



コーポレート・ガバナンス

当社ではコーポレート・ガバナンス基本方針を定め、経営の健全性、実効性および透明性を確保し、企業価値の持続的な向上により社会から信頼・評価される「社会貢献企業」を実現するために、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

1) 意思決定、監督および業務執行の体制

当社における経営の意思決定および監督については、取締役5名で構成される取締役会において行っています。取締役会に付議される案件は、代表取締役社長、取締役および執行役員等で構成される経営会議において十分な事前審議を行い、意思決定の適正化を図っています。

業務執行については、取締役の合理的な業務分掌を定め、執行役員に取締役の業務執行を補助させています。また、社内規程等により、各機関、各部署の業務分掌を定め、機動的かつ適正に業務執行を行っています。

2) 監査体制

当社においては、監査役による業務・会計監査、会計監査人による会計監査および内部監査室による内部監査の三様の監査を行っています。

監査役は、取締役の職務執行を監査し、その適正確保に努めています。

内部監査室は、主に業務内容全般の適法性、合理性、効率性などを内部監査し、被監査部署に対しては改善指導、フォローアップを行っています。

これらの結果については経営会議に報告しています。

3) 内部統制

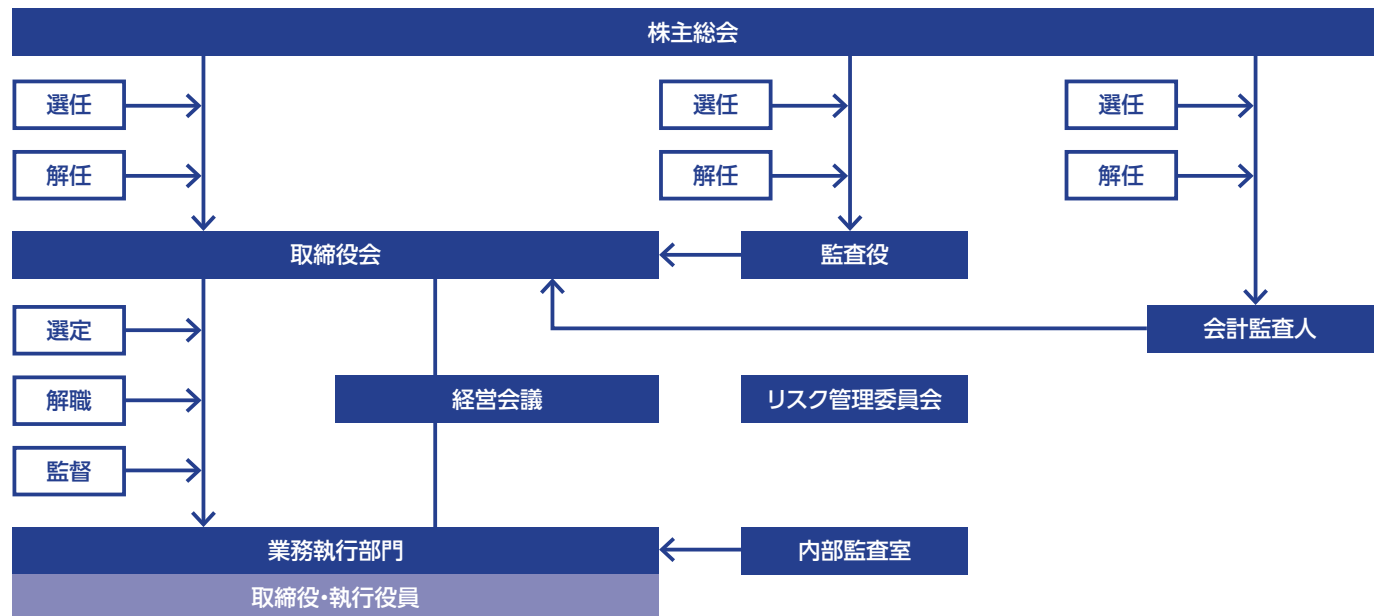
「内部統制システムの整備に関する基本方針」を定め、当社グループにとって最適なシステムを構築するよう努めています。

コーポレート・ガバナンス基本方針

当社は株主をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様との適切な協働により、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的に、コーポレート・ガバナンス基本方針を定めています。

1. 株主の権利・平等性の確保
2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
3. 適切な情報開示と透明性の確保

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

代表取締役社長をコンプライアンス最高責任者とし、独占禁止法、下請法、環境関連法令、腐敗防止関連法令、輸出管理法その他の法令違反のほか、人権侵害、各種ハラスメントが起きないようにコンプライアンスの遵守徹底を図っています。

1) 行動規範

新たなグループとしてスタートしたことから、グループの役員および従業員の行動の指針となる8つの行動規範を定めています。

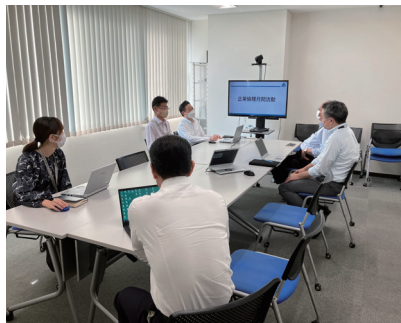
- ①安心・安全な製品とサービスの提供
- ②法令遵守
- ③公正取引
- ④安全と環境
- ⑤ステークホルダーとのコミュニケーション
- ⑥人権の尊重
- ⑦地域社会との調和
- ⑧CSR調達

2) 企業倫理月間活動

毎年10月を「企業倫理月間」とし、この期間中の活動を通じてコンプライアンスに対する意識向上を図っています。

- ①行動規範を活用し、班・係・課・部単位で意見交換し、報告書提出
- ②経営職層、管理職層は行動規範遵守に関する誓約書提出

- ③全従業員は腐敗防止、マネーロンダリング、貿易管理に関するコンプライアンスポリシーの宣誓書提出

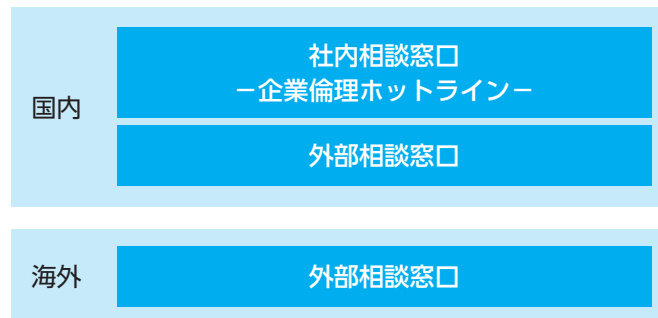


3) 内部通報窓口

当社グループでは、独占禁止法、下請法、環境関連法令、腐敗防止関連法令、輸出管理法その他の法令違反のほか、人権侵害、各種ハラスメントなどのあらゆるコンプライアンス違反を、早期に把握・是正するため、内部通報窓口を設けています。内部通報の内容、調査に関わる情報は極秘情報として取り扱われ、内部通報をしたことを理由として不利益は発生しません。通報ルートとして社内の窓口と外部の窓口を設置し、通報者にとって通報しやすい体制を構築しています。

通報・相談があった事案は、社内規程に則り、迅速に対応しています。また、再発防止のため、制度整備、関連規程改定などを適宜行っています。

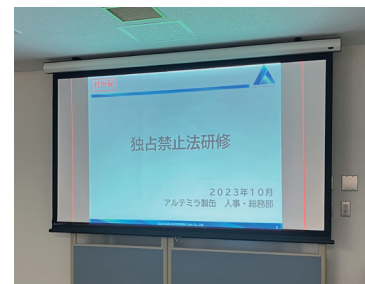
利用促進のため、イントラネットへの情報掲載などを行い、内部通報制度の周知に努めています。



4) コンプライアンス研修等

① 独占禁止法

当社グループは、過去に子会社において公正取引委員会より独占禁止法に違反する行為があったとして処分を受けたことを厳粛かつ真摯に受け止め、二度と同様の事態を発生さ



せることのないよう、社員教育の拡充、監査体制の強化等の再発防止策を講じています。

② 情報セキュリティ

秘密情報の漏えい防止のため、必要な規則を制定し、グループの役員および従業員に対して研修を年に複数回実施しています。

リスクマネジメント

1) リスクマネジメント活動

新たなグループが発足してから代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を計3回実施しています。委員は当社の代表取締役社長、財務経理担当の取締役、執行役員、各部門長、グループ会社社長で構成されており、グループ共通で考えられるリスクについて議論し、代表取締役社長指示の下、リスクへの低減策を講じ、早期に改善できるよう努めています。

2) 危機管理体制

当社グループでは、経営または事業活動に重大な影響を与える事態が発生した際には、代表取締役社長を委員長とする危機管理委員会を設置し、関係各部が連携して迅速に対応することができるよう体制を整備しています。

安全衛生の取り組み

当社は、「安全の確保に万全を期し、無事故、無災害に努めます」を行動規範のひとつとしています。

アルテミラグループ安全衛生方針

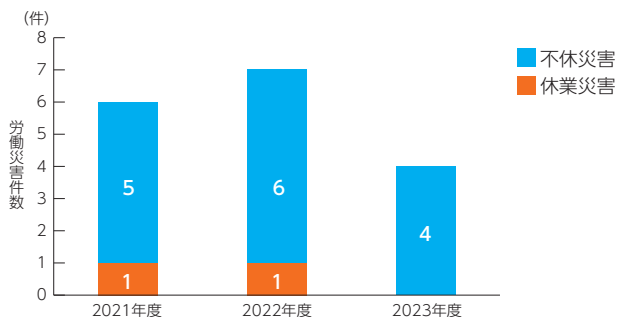
「安全と健康を守ることは全てに優先する」

法の遵守	労働安全衛生関連諸法令の遵守
安全管理	危険に対する感受性向上による労働災害の未然防止
衛生管理	心身ともに健康で明るい職場環境の形成
継続的改善	自立した安全衛生活動の運営と活性化

労働災害の状況

2023年度は、4件の不休災害が発生しました。

過去3年間(2021-2023年度)の安全成績



安全衛生活動

当社では安全に強い職場と人づくりを目指し全員参加の安全衛生活動に取り組んでいます。具体的には、各職場における危険の見える化に向けた危険予知(KY)活動、ツールボックスミーティング(TBM)の運用、危険感受性を高めるためヒヤリハットの共有や人のミスを未然に防ぐ取り組みとして、ヒューマンエラー防止社内研修などの教育訓練にも努めています。

さらに、リスクアセスメント推進により設備の本質安全化を徹底し、また、過去災害の振り返りを織り込んだ工場間安全相互監査を実施し、実活動に関する管理体制の質の向上を図っています。

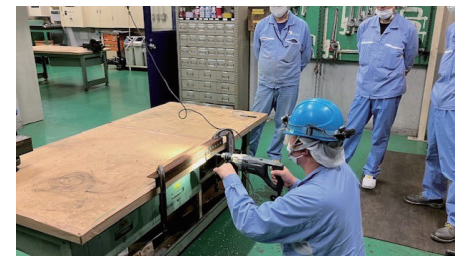
毎年7月の全国安全週間、10月の全国労働衛生週間の中では安全大会の開催や従業員による標語の入選者表彰を行うなど相互啓発の醸成を図ることに加え、労働災害防止や生活習慣病予防のため、姿勢のゆがみ測定会等のイベントも企画しています。



ツールボックスミーティング(TBM)



ヒューマンエラー防止社内研修



過去災害の模擬訓練



姿勢のゆがみ測定会

VR危険体感訓練

VR技術による危険体感訓練では、人の心理面も意識した学習により労働災害の怖さを疑似体験することで危険に対する感受性を高めています。



VR危険体感訓練

交通安全

春と秋の交通安全運動期間をはじめとする立ち番の実施により、シートベルトの着用状況や歩行者の横断時における指差呼称のチェックを行うなど指導を行っています。



交通立ち番

作業環境測定

当社には、騒音職場や有機溶剤などを取り扱う工程があります。快適な作業環境を確保して、従業員の安全と健康を維持、改善することを目的とし、年2回の作業環境測定を実施しています。

健康支援

法令に則り、「定期健康診断」、「特殊健康診断」、「ストレスチェック」を行っています。また、メンタルヘルス対策の一環として、社内外に相談窓口を設けています。さらに、受動喫煙防止や禁煙支援、責任ある飲酒に関する活動にも、積極的に取り組んでいます。



定期健康診断(聴力検査)

エイジフレンドリー

高齢者に配慮し、健康や体力に応じた職場環境、および作業内容の改善に取り組んでいます。



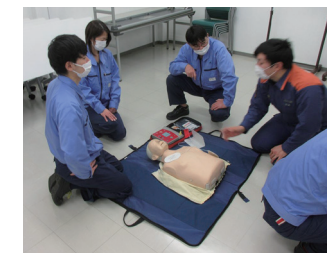
体力チェック

防災訓練

火災や地震を想定し、迅速に初期消火や救命・避難行動をとれるよう、年1回訓練を実施しています。



総合防災訓練(放水訓練)



総合防災訓練(救命講習)

品質保証の取り組み

当社は顧客価値の高い製品・サービスの提供のため、One ALTEMIRAとしての品質保証体制を構築し、高精度の品質管理と厳格な衛生管理を行っています。

飲料用アルミニウム缶の提供という社会的役割を担い、安全・安心なアルミ缶を皆さまにお届けします。

品質方針および食品安全方針

私たちは、お客様の期待に応える安全・安心な製品・サービスの提供をします。

1. お客様の立場に立って、満足度向上を追求します。
2. 法令を遵守します。
3. 製品・サービスの安全性を徹底していきます。

品質保証組織

品質保証部は、アルテミラ株式会社とアルテミラ製缶株式会社の品質保証活動を統括し、全社的な戦略に基づく品質方針の制定と実行推進を行っています。

2022年より「品質委員会」を設置し、各工場の品質不具合の改善状況の共有を定期的に行い、製品の品質向上に努めています。

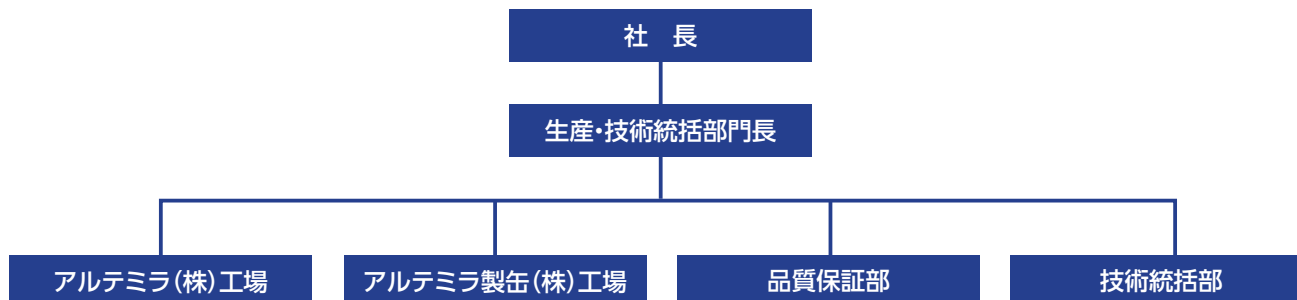
品質リスク診断

品質リスク(コンプライアンス、不具合等)低減を目的に、品質保証部が各工場の運用状況を現地確認し、評価、改善提案を行っています。

守られ度点検

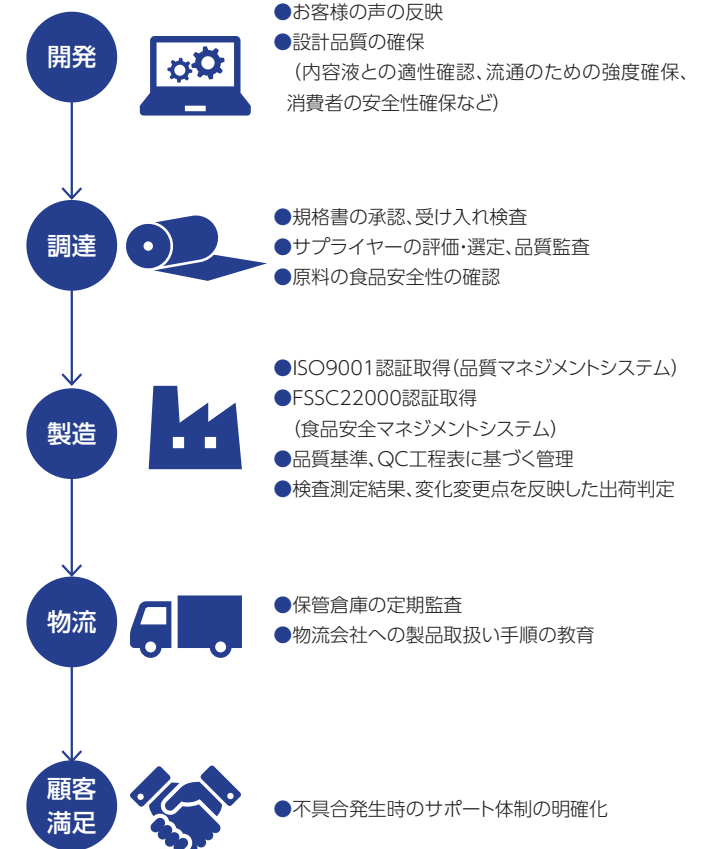
品質不具合に対して定めたルールが守られ維持されているかを各工場にて確認し、ブラッシュアップしています。

品質委員会運営組織



各プロセスにおける品質保証活動

当社製品の企画・開発から原料の調達、製造、物流、お客様への提供に至るすべてのプロセスで、全従業員が一丸となって品質保証活動に取り組んでいます。



社会貢献活動

アルテミラグループ各社は、よき企業市民として、地元・地域から愛される会社でありつづけるために、スローガンを掲げ、みんなを笑顔にする社会貢献活動を推進しています。

社会貢献活動スローガン

みんなを笑顔に「アルテミラ・スマイル活動」

- アルミ缶のリサイクルで笑顔に
- 美しい環境で笑顔に
- ミライを担う人と笑顔に

資源循環型社会への貢献活動(富士小山工場)

廃棄される作業着を回収してリサイクル

作業着のリニューアルに伴い、役目を終えた作業着は本来であれば産業廃棄物として処分します。富士小山工場では産業廃棄物の排出量削減の観点や環境への影響を考慮して、廃棄処分するのではなくリサイクルすることはできないか検討しました。

そこでBRING UNIFORM™(運営:株式会社JEPLAN)が提供するリサイクルシステムを利用し、環境保護や資源の有効活用につなげるため作業着を新たな服や資源に生まれ変わらせることを考えました。従業員にも協力をいただき、不要な物が混入しないように作業着だけを回収しました。その結果として約1,362kgの作業着をリサイクルすることができました。

回収された作業着は、分別後、様々な方法でリサイクルされます。なかでも一部のポリエステル100%の作業着はケミカルリサイクル技術により、再生ポリエステルにリサイクルされます。これによりCO₂の排出削減へつながります。

富士小山工場は今後も工場で発生する不要なものからリサイクルできるものを精査し、環境へ配慮した工場運営と循環型社会への挑戦を行ってまいります。



「BRING UNIFORM™」とは

(株)JEPLANが運営する「BRING UNIFORM™」は、企業の不要になったユニフォームを回収しリサイクルをするプラットフォームです。回収したユニフォームは、服のポリエステル原料や自動車内装材などにリサイクルしています。なかでも一部のポリエステル100%のユニフォームはJEPLAN独自のケミカルリサイクル技術「BRING Technology™」を用いて、再生ポリエステルにリサイクルしています。不要になったユニフォームを新たな衣類等の原料に生まれ変わらせ、CO₂の排出削減と資源循環を実現します。

<https://bringuniform.jp/>
(株式会社JEPLANのウェブサイト)

地域社会への貢献活動(小山工場)

アルミ缶回収チャリティー収益金の寄付について

従業員全員が活動に参加しているアルミ缶回収の収益金を小山市社会福祉協議会の「どんぐり基金」に寄付いたしました。

「どんぐり基金」とは、小山市社会福祉協議会 地域福祉振興基金の愛称で、小山市の地域福祉を充実させるために役立てられています。

「どんぐり基金」の名称は、小山市の木がどんぐりの実をつけるシラカシであり、貴重な寄付金をどんぐりに例えて名づけられました。

私たちは、社会貢献活動のひとつとして今後もアルミ缶の回収に取り組んでまいります。



小山市社会福祉協議会 地域福祉振興基金授賞式

地域社会への貢献活動(彦根工場)

アルミ缶回収チャリティー収益金とフードバンクへの寄付について

従業員全員が活動に参加しているアルミ缶回収の収益金を彦根市社会福祉協議会の「子どもの幸せ応援基金(はぴとも基金)」と「のぞみ子ども食堂(プチクラファン)」に寄付しました。

アルミ缶が子供たちの笑顔につながるように、当社はこれからも応援していきます。

アルミ缶だけではなく従業員が持ち寄った未利用食品を回収し、彦根市社会福祉協議会「フードバンクひこね」への寄付も行いました。



菅原工場長(左)と彦根市社会福祉協議会 磯谷会長(右)



彦根市社会福祉協議会「フードバンクひこね」への寄付品

Company Profile 会社概要

社名 アルテミラ株式会社
(英文表記)ALTEMIRA Co., Ltd.
設立 1969年4月25日
事業内容 飲料用アルミニウム缶の製造、
研究開発および販売
資本金 110億7500万円
代表者 中塚 晃章
従業員 554名(2023年12月時点)

拠点

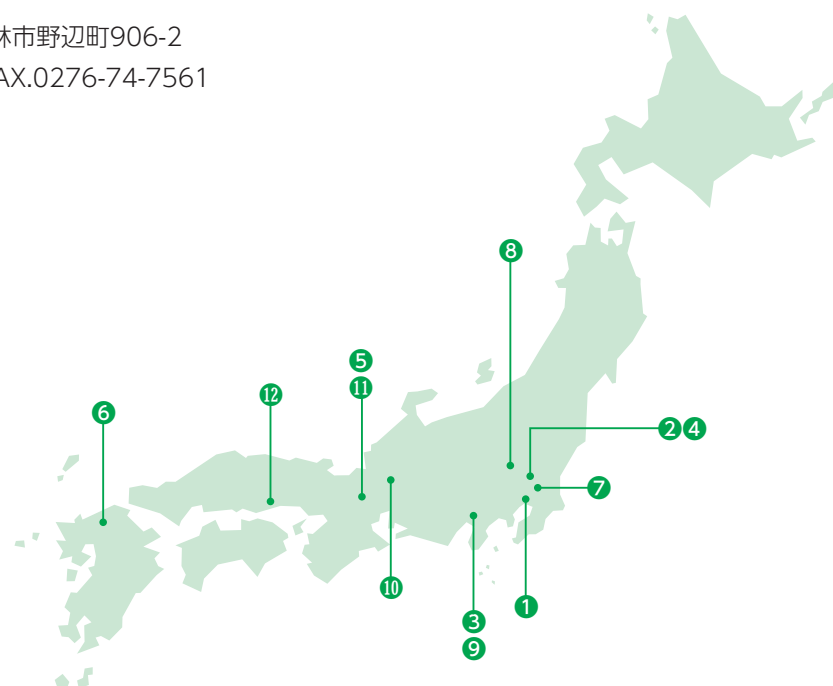
- ①本社**
〒112-8525 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
TEL.03-3830-6130 FAX.03-3830-6131
- ②技術センター**
〒323-0811 栃木県小山市犬塚1-30-3
TEL.0285-23-1121 FAX.0285-30-2020
- ③富士小山オフィス**
〒410-1392 静岡県駿東郡小山町菅沼1500
TEL.0550-76-3260 FAX.0550-76-5430
- ④小山工場**
〒323-0811 栃木県小山市犬塚1-30-3
TEL.0285-21-2311 FAX.0285-30-1073
- ⑤彦根工場**
〒529-1151 滋賀県彦根市楡町370
TEL.0749-25-1501 FAX.0749-28-8001
- ⑥大牟田工場**
〒836-0037 福岡県大牟田市岬町1-16
TEL.0944-41-2111 FAX.0944-41-2112

社名 アルテミラ製缶株式会社
(英文表記)ALTEMIRA Can Co., Ltd.
設立 2005年10月3日
事業内容 飲料用アルミニウム缶の製造、
研究開発および販売
資本金 80億円
代表者 中塚 晃章
従業員 674名(2023年12月時点)

拠点

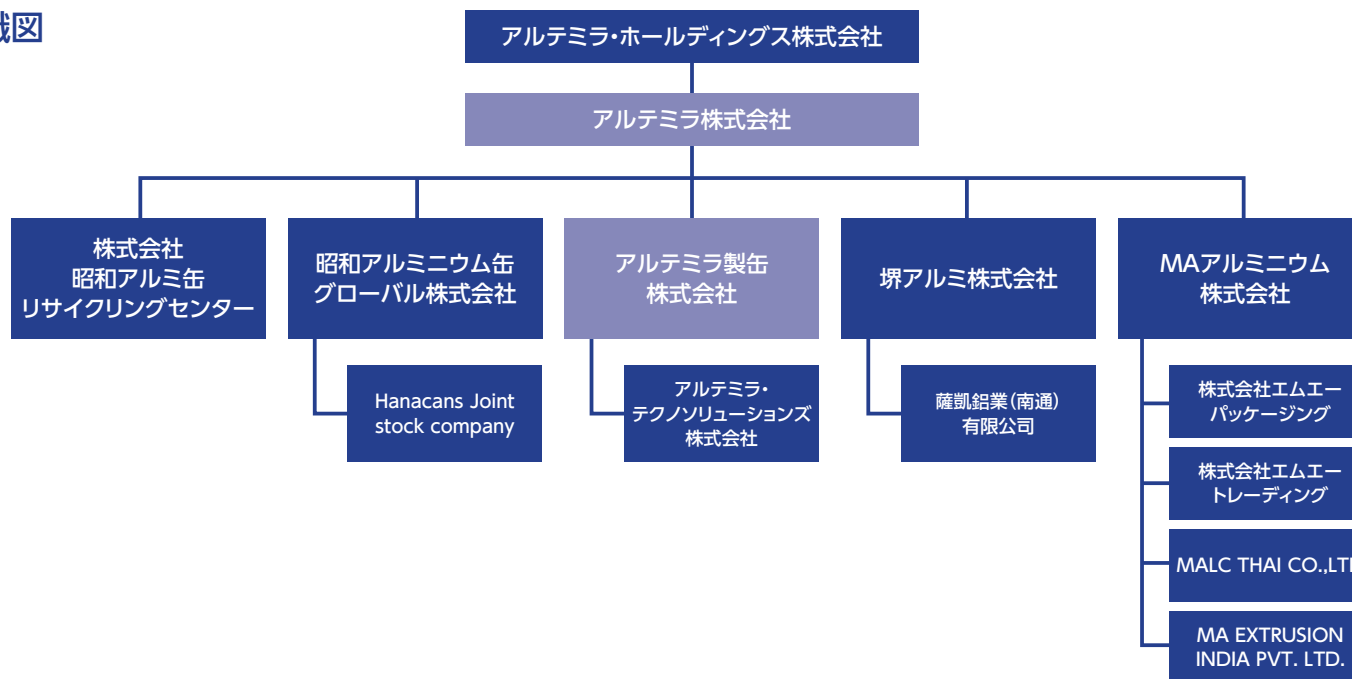
- ⑦結城工場**
〒307-0016 茨城県結城市新堤仲通り1-1
TEL.0296-33-3811 FAX.0296-33-0339
- ⑧群馬工場**
〒374-0047 群馬県館林市野辺町906-2
TEL.0276-74-8500 FAX.0276-74-7561

- ⑨富士小山工場**
〒410-1392 静岡県駿東郡小山町菅沼1500
TEL.0550-76-3211 FAX.0550-76-5521
- ⑩岐阜工場**
〒505-0006 岐阜県美濃加茂市蜂屋町下蜂屋伊瀬入会16-8
TEL.0574-26-8111 FAX.0574-26-8115
- ⑪滋賀工場**
〒522-0244 滋賀県犬上郡甲良町在士古田681
TEL.0749-38-2001 FAX.0749-38-3485
- ⑫岡山工場**
〒709-0844 岡山県岡山市東区瀬戸町南方150
TEL.086-953-1511 FAX.086-953-2230

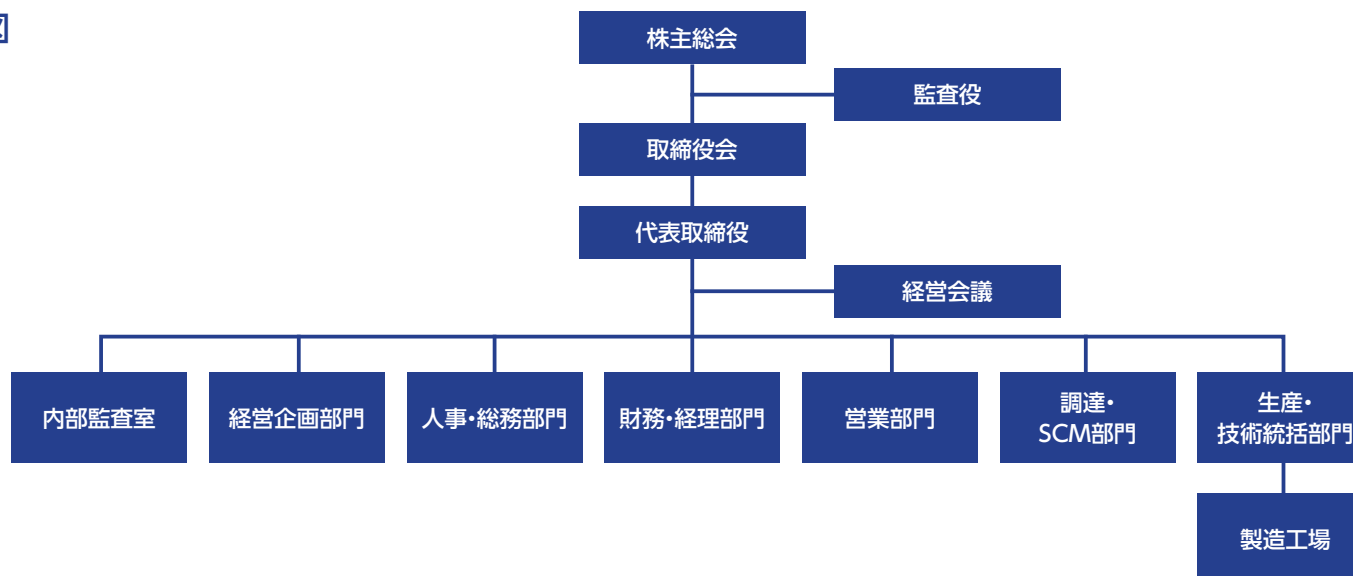


Organization Chart 組織図

アルテミラグループ組織図

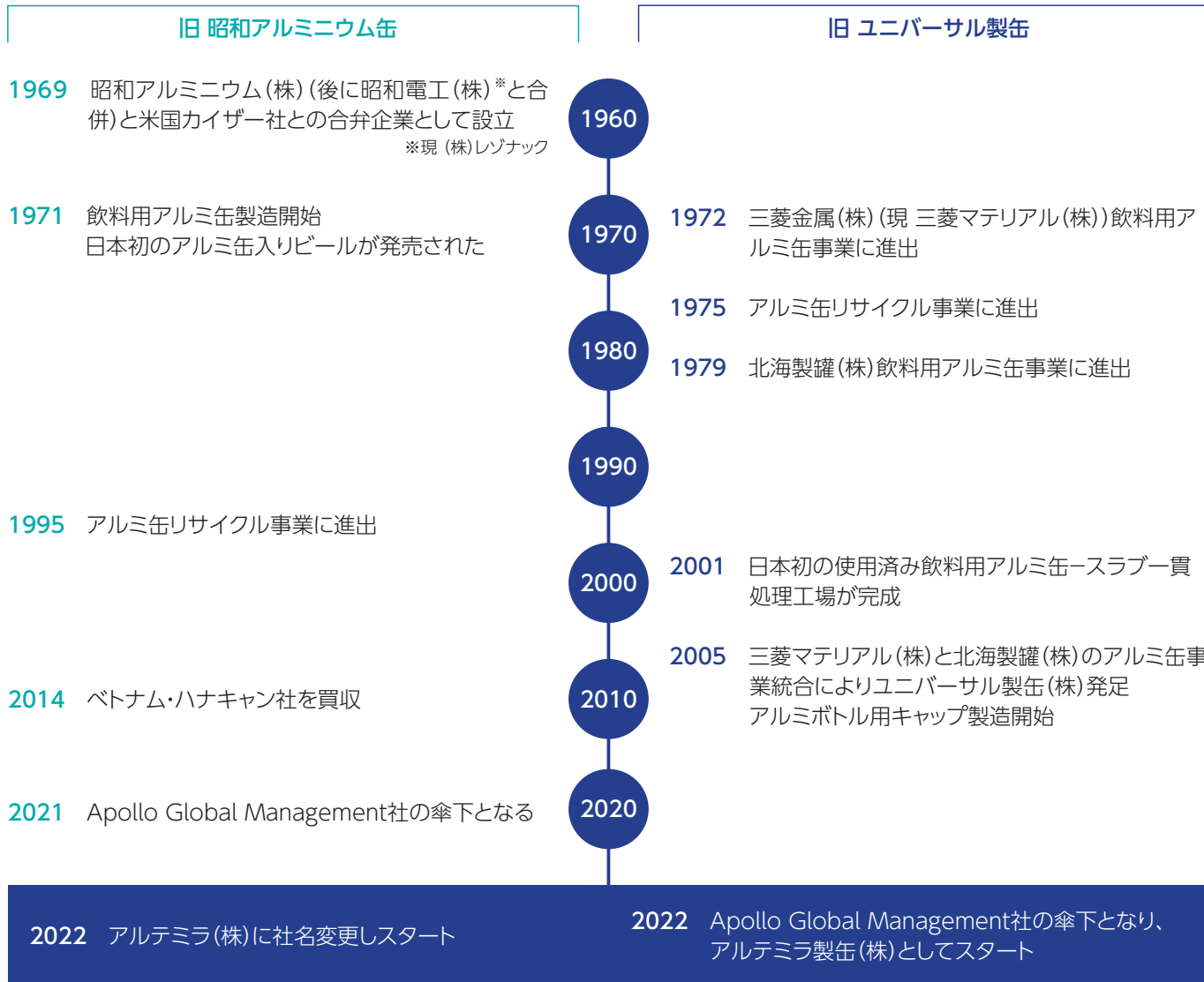


アルテミラ株式会社組織図



History 沿革

日本と世界の 飲料用アルミ缶を支える 「One ALTEMIRA」に向けて



アルミの技術で夢のアルミライを®